

令和3年度博物館施設評価集計シート（最終）

施設名 近代美術館

1. 数値目標による評価

(1) 全館共通項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	252,000	人	未達	教育振興基本計画に基づく年度別利用者目標	
				134,505	人			
2	利用状況	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	38,000	人	未達	基準値: 37,992人(基準値は過去5年の内、最高・低年を除く3年の平均)	
				37,849	人			
3	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	2,010	件	未達	基準値: 2,006件	
				1,287	件			
4	利用状況	経営努力	観覧料および事業等収入額	51,566,000	円	達成	当該年度予算計上額	
				56,580,299	円			

(2) 館別独自項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	企画展	入館者	企画展の観覧者数	42,000	人	未達	実施予定の企画展の予算積算人数 4つの水紋/4,114人、ボイス+パレルモ/8,455人、美男におわず/11,714人、大・タイガー立石展/12,782人、開館40周年記念展/3,904人	
				40,969	人			
2	学校との連携	学校利用	学校団体の美術館利用校数	62	校	未達	基準値: 61.3校 4月0校、5月1校、6月0校、7月1校、8月1校、9月1校、10月3校、11月11校、12月5校、1月0校、2月2校、3月3校	
				28	校			
3	学校との連携	授業協力	学校での鑑賞授業の回数	44	校	達成	基準値: 43.3校 4月0校、5月0校、6月4校、7月5校、8月0校、9月4校、10月8校、11月9校、12月4校、1月4校、2月4校、3月6校	
				48	校			
4	子供向け事業	MOMASのとびら	MOMASのとびら参加人数	400	人	達成	感染拡大防止に最大限配慮した計画数 10名×38回 5月4回、6月2回中止(コロナ対策)、9月1回中止(台風のため) 上記を除いた全31回実施のうち9回は複数のプログラムを会場を分けて実施	
				586	人			
5	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	490	件	未達	基準値: 489件	
				345	件			
6	利用状況	インターネットの活用	年間HPアクセス件数	894,250	件	達成	基準値: 894,247件	
				1,064,810	件			
7	広報	広報成果	広報媒体での掲載件数	300	件	達成	基準値: 294件	
				315	件			
8	満足度	MOMASコレクションアンケート	アンケートでのMOMASコレクション常設展満足度	80.0	%	達成	第1期93%、第2期97%、第3期94%、第4期(3月末時点)96%	
				95	%			
9	満足度	企画展アンケート	アンケートでの企画展満足度	80.0	%	達成	4つの水紋満足度95%、ボイス+パレルモ91%、美男におわず97%、大・タイガー立石展98%、開館40周年記念展89%	
				94	%			

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展の開催 収蔵品を中心にしたMOMASコレクションを4期にわけて開催：1期・4月24日～7月11日、2期・7月17日～10月17日、3期・10月23日～2月6日、4期・2月12日～4月24日。MOMASコレクションの名品を紹介する「セクション」のコーナーのほか、調査研究に基づいたコーナー展示を実施。 ・企画展の開催 年間5本の企画展を実施：「コレクション 4つの水紋」3月23日～5月16日、「ボイス+パレルモ」7月10日～9月5日、「美男におわす」9月23日～11月3日、「大・タイガー立石展」11月16日～1月16日、「開館40周年記念展 扉は開いているかー美術館とコレクション 1982-2022」2月5日～5月15日 ・教育普及事業 学校団体案内、授業協力、教材貸出、アーティスト派遣事業「ミュージアム・キャラバン」、ワークショップ「MOMASのとびら」、教員美術講座 ・広報事業 ホームページ、ツイッター、フェイスブックでの情報発信 美術館広報紙「ソカロ」等の作成、企画展のポスター・ちらしの配布
事業の実施状況と経過	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展の開催 上半期はコロナ禍の影響があったが、観覧者数は33,218人(1月末現在)に達しており、実績は順調である。今年度も「色彩と軌跡ージャコモ・バッラ《進行する線》を起点に」「特集：中野四郎」「かぐわしき女性像」など、調査研究を踏まえた企画性のあるコーナー展示を適宜開催した。また、4期では、昨年度新たに寄託されたファンゴッホの初期の貴重な水彩画作品も、調査研究の紹介とともに展示した。 ・企画展の開催 時宜に適った独自性のあるテーマで、歴史的意義も有する企画展のラインナップが組むことができた。コロナ禍の影響がある中、「ボイス+パレルモ」「美男におわす」「大・タイガー立石展」は高い関心を集め、有料率・図録購入率ともに高い水準で推移した。「ボイス+パレルモ」の観覧料収入は予算額の96%を超え、予算の約1.5倍を売り上げた図録との合計で予算を超える状況であった。「美男におわす」は観覧者数11,714人に対し有料率68%の実績となり、図録も完売し、歳入の上でも十分な実績となった。「大・タイガー立石展」は観覧者数12,782人に対し有料率63%の実績となり、図録も完売し、歳入の上でも十分な実績となった。 ・教育普及事業の実施 学校関係については、博学連携を希望する学校からの依頼は多いものの、コロナ禍のため中止となる場合もあった。特に、団体案内は中止せざるを得ないことが複数件あった。授業協力やオンラインにするなど、対応している。また、次年度以降に変更する計画を立てるなど、連携が深められている。ワークショップは、当面の間、人数を制限する必要があるが、より多くの参加者が楽しめるよう、複数のプログラムを異なる場所で実施する回なども設定した。その他の教育普及事業についても、コロナ禍以前のようにはいかない部分もあるが可能な範囲で取り組むことができ、今後のよりよい運営に向けて検討している。 ・広報事業の取組 ソカロ等の発行・配布、SNSでのコレクションや展覧会の紹介など、その都度適切な時期に情報を発信してきた。
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展は企画性のある展示に加え、地域の作家である中野四郎の特集展示やファン・ゴッホ作品の科学調査を踏まえたコーナー展示などを行うことができ、多角的なプログラムを展開できた。観覧者数もほぼ目標を達成できた。 ・企画展に関しては、「ボイス+パレルモ」、「美男におわす」、「大・タイガー立石展」の3本が話題になり、観覧者数および図録の売り上げにおいて、十分な実績を残した。また、「大・タイガー立石展」はうらわ美術館と同時開催を行い、地域の美術館同士が連携する事業として互いに成果を上げることができた。2月からは、当館の開館時の様子や設立方針などを紹介する「開館40周年記念展 扉は開いているかー美術館とコレクション 1982-2022」を開催し、これまでとは異なるアプローチの企画展を実現できた。 ・教育普及事業は、コロナ禍のため、公募展など中止にせざるを得ない事業もあったが、人数制限などをしながら、可能な限り継続的に実施した。令和2年度は中止となったミュージアム・レクチャーは、専門家を招聘し、日本画の画材をテーマにした講演を行うことができた。

基礎データ

職員数 (学芸員数)	22人 (9人)	総予算額 (人件費を除く)	184,526,000円	職員一人あたりの県民人口	333,718人
収蔵資料総点数 (R3.3末現在)	3,783点	事業経費 (上記の内数)	134,047,000円	利用者一人あたりのコスト (令和2年度)	2,610.8円
令和2年度 収集資料点数	30点	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	51,566,000円 (25,810,000円)	県民人口に対する利用者割合 (令和2年度)	1.00%

(注) 令和3年度4月1日現在の埼玉県推計人口は7,341,788人である

2. 全館共通項目チェックリスト

近代美術館

		評価基準	
		完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
		着手状態乃至課題が残されている状態	B
		未着手状態	C
項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の収集	① 資料の収集方針、収集計画を策定しているか	A	美術資料収集方針
	② 収集方針、収集計画に基づき資料収集を行っているか	A	同上
	③ 特色あるコレクションの形成に努めているか	A	同上
	④ 有形資料に限らず、映像資料や情報資料等も積極的に収集しているか	A	同上
	⑤ 収集した資料についての調査を実施し、調書を作成しているか	A	美術資料取扱規程
	⑥ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか	A	第1回資料選考評価委員会を開催。第2回を2月24日に開催。
	⑦ 規定の資料台帳を整備し、資料を登録しているか	A	美術資料取扱規程
	⑧ 規定の収集資料ラベルを設け、資料に添付しているか	A	同上
	⑨ 資料の基本データ記録を作成し管理しているか	A	同上
	⑩ 収集時に資料の殺虫処理・クリーニングを適切に行っているか	A	1月17日に実施
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が整備されているか	A	収集作品の保存管理要領
	② 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項を職員に周知し、それに基づいた資料の保存管理を実施しているか	A	同上
	③ IPMの考えに基づいた資料の保存管理について、最新情報の収集や研修を行っているか	A	同上
	④ 資料特性に即した適切な収蔵施設を整備しているか	A	同上
	⑤ 収集資料の清掃・修理等を適切に行っているか	B	予算上、作品修復が滞っている
	⑥ 有害生物・室内ガス・光種等のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	A	収集作品の保存管理要領
	⑦ 資料の殺虫殺菌処理を適切に行っているか	A	同上
	⑧ 温湿度の日常的な管理・記録化等を行っているか	A	同上
	⑨ 光量の管理を適切に行っているか	A	同上
	⑩ 資料の所在確認作業を定期的に行っているか	A	同上
	⑪ 資料の劣化状況を定期的に確認しているか	A	同上
	⑫ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的かつ必要に応じて行っているか	B	予算不足のため、作品修復が滞っている
	⑬ 借用資料・寄託資料の更新手続きは適正に行われているか	A	美術資料取扱規程

項目	チェック内容		評価(A~C)	備考
資料の保存管理	⑭	資料のデータベースを整備するとともに、情報を適宜更新しているか	A	美術資料取扱規程
	⑮	収蔵庫の入退室管理簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑯	収蔵資料の出納簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑰	収蔵庫の鍵を適正に管理しているか	A	同上
資料の活用	①	収蔵資料の活用に関して規程・手続きを整備しているか	A	同上
	②	収蔵資料の活用に関する手続き等を公開しているか	B	関係例規集をWeb公開できていない。
	③	収蔵資料を展示に活用しているか	A	MOMASコレクション、企画展で活用
	④	収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	A	近代美術館所蔵作品館外貸出基準
	⑤	収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等・原板利用等)に適切に対応しているか	A	近代美術館条例
	⑥	資料の基礎情報・解説付目録(紙・電子)を適宜作成・更新・公開しているか	A	収蔵品データベース
	⑦	収蔵資料をホームページ等で紹介・更新しているか	A	収蔵品データベース、解説アプリ
常設展示	①	資料の展示環境を適切に管理しているか	A	定期的に環境調査を実施
	②	展示関連のサイン・パネル等がわかりやすいか	A	
	③	展示室内に監視員や監視カメラ等を配置しているか	A	
	④	展示情報を適宜修正・更新しているか	A	
	⑤	展示設備等を適宜点検しているか	A	
	⑥	展示ガイド等を作成しているか	A	展示替え毎に、解説アプリを活用
	⑦	解説リーフレット等を作成しているか	A	出品リストの配布。
	⑧	展示解説等を適宜実施しているか	C	コロナ禍で実施できていない。再開を検討中。
	⑨	観覧者アンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	
	⑩	アンケート結果に基づいた展示改善を実施しているか	A	対応可能なものは実施
	⑪	県民に対し展示情報を適宜発信しているか	A	HP。ポスター
学習支援事業	①	事業情報を利用者に広く発信しているか	A	印刷物、HP、SNS
	②	多様な媒体による参加申し込み方法を用意しているか	A	はがき、電話、FAX、電子申請等
	③	多様な参加者を想定したプログラムを用意しているか	A	一般、子供(未就学児を含む)
	④	参加者に対しサポート体制を整備しているか	A	ボランティアスタッフの配置

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
学習支援事業	⑤ 事業実施にあたり参加者の安全に配慮しているか	A	ボランティアスタッフの配置、注意喚起
	⑥ 参加者を対象としたアンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	アンケートの実施
	⑦ アンケート結果に基づいてプログラムの開発・改善を行っているか	B	アンケートの集計・分析
	⑧ 来館者用の図書・情報コーナーを設けているか	A	コロナ禍のため、現在週2日開室
	⑨ 学芸員実習やインターンシップの学生を受け入れているか	A	学芸員実習及びインターンシップの受入れ
県民との連携・協働	① ボランティア制度を導入しているか	A	作品解説ボランティア、イベント対応等
	② ボランティアの活動に関する規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティアの種別ごとに整備・運営
	③ ボランティアの募集・認定の規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティアの種別ごとに整備・運営
	④ ボランティアの研修システムが確立され、適切に実施されているか	A	ボランティアの種別ごとに整備・実施
	⑤ ボランティアの活動成果が公開されているか	A	HP及び年報等での活動報告・予告
	⑥ 友の会、NPO等が館事業に参加する機会を設けているか	A	コロナ対策を講じて実施
	⑦ 地域社会で実施されるイベント等に館として積極的に関わっているか	B	地域の商店街、自治会イベント等
調査研究活動	① 調査研究テーマを定めているか	A	館の方針を念頭に置き、各個人で設定
	② 調査研究のための予算措置等に努力しているか	B	単発の助成金のみ
	③ 調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加し、館内に情報提供しているか	A	資料保存等
	④ 収集している資料に関連する専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	MOMASコレクション、企画展
	⑤ 資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	A	専門研修に参加
	⑥ 地域貢献の視点から、館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	A	MOMASコレクション、企画展
	⑦ 学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	
	⑧ 他館や他機関との間で共同研究等を行っているか	A	巡回展の共同企画
	⑨ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	A	展示、図録など
	⑩ 調査研究の成果を、社会貢献の視点から国、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	A	レファレンス等情報提供
施設・アメニティー	① 施設の維持・改善についての計画を策定しているか	A	毎年度策定
	② 展示室、収蔵庫などで耐震対策を行っているか	A	テグス止め等
	③ 危機管理マニュアルを整備しているか	A	毎年度更新
	④ 防災・救急訓練等を定期的実施しているか	A	公園設備9月実施、建物11月実施
	⑤ 休憩コーナー、授乳コーナー、喫茶コーナー等を設置または状況により対応しているか	A	設置済
	⑥ レンタル用の車椅子、ベビーカーは整備されているか	A	車椅子3台 ベビーカー5台

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
施設・アメニティー	⑦ バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	A	施設設備点検の実施
	⑧ 一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	A	障害者用3台
	⑨ 手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	A	点字ブロック、エレベーター、自動ドア等
	⑩ 利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	A	エントランス付近に設置
	⑪ 館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	B	サインの一部英文標記
	⑫ 利用実態に応じて開館時間を設定しているか	A	10:00~17:30
	⑬ 便益施設として利用者数に見合った施設・設備を確保しているか、または状況に応じて対応しているか	A	バス駐車場として公園路を開放するなど
施設の利活	① 施設利用のための要項、マニュアルを策定しているか	A	各種利用要領、利用案内等
	② 施設利用のための情報を公開しているか	A	HPで利用案内を公開
	③ 施設を一般の利用に提供しているか	A	一般展示室、講堂
	④ 施設を学校団体等の利用に提供しているか	A	一般展示室、講堂
	⑤ 施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	B	コロナ感染防止の影響で中止する団体がある。
	⑥ 地域や他施設・機関・学校等との連携を図っているか	B	コロナ感染防止の影響で中止する団体がある。

3. 館別独自項目チェックリスト

近代美術館

評価基準				
完了または順調に進捗している問題がない状態			A	
着手状態乃至課題が残されている状態			B	
未着手状態			C	
項目	チェック内容		評価(A~C)	備考
展示事業の実施	①	展示観覧者アンケートを実施し、満足度を測定しているか	A	
	②	展示観覧者の目標数を設定し、その達成に努力しているか	A	
	③	企画展の理解を深めるため学芸員による展示解説、講演会等を適宜実施しているか	C	コロナ禍で実施できず。再開を検討中
	④	展示内容に即した弾力的な広報活動を実践しているか	A	広報紙の内容・印刷物配布先の見直し
	⑤	外部資金の導入に努力しているか	A	芸術文化振興基金、美術館連絡協議会研究助成ほか
教育普及及び連携・支援活動の実施	①	収蔵作品の理解を図るため学芸員による解説等を適宜実施しているか	B	コロナ禍で例年通りの実施は不可。スライドトーク等を行った。
	②	美術に対する理解を深めるテーマを設定した事業を適宜実施しているか	A	ワークショップ、講座等実施
	③	授業や部活などの受け入れ体制を整備しているか	A	授業、部活動、インターンシップの受け入れ
	④	教員の資質向上を目的とした研修を実施しているか	A	学校、教育事務所を対象に実施
	⑤	館職員を学校へ派遣し授業協力を実施しているか	A	複製画等による鑑賞授業の実施
	⑥	教育普及用資料の貸し出しを実施しているか	A	複製画、鑑賞キット、アートカード等の貸出
	⑦	大学教員と協働しながら学生を適切に指導しているか	A	埼玉大学との授業連携等(単位認定)
地域・他機関との交流・協力事業の実施	①	地域・他機関との交流・協力事業を実施しているか	A	地元商店街、自治会との事業協力、うらわ美術館との連携
	②	企画展等を通じ国外美術館等と相互交流を図っているか	A	企画展・ボイス+パレルモ展

令和3年度 博物館施設 総合評価

施設名 近代美術館

		達成	未達	達成見込
全館共通	数値目標による評価	1	3	0
各館独自	数値目標による評価	6	3	0

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	80	9	1
各館独自	チェックリストによる評価	12	1	1

自己評価総括

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言等が長引き、コロナ禍が継続した上半期であったが、企画展「ボイス+パレルモ」「美男におわす」「大・タイガー立石展」は観覧者数が落ち込むことなく、有料率や図録購入率も高く、一定の実績を上げることができた。内容に関心のある層が、着実に来館しているように思われる。 ・「大・タイガー立石展」は近隣のうらわ美術館と協働し、大規模な回顧展を同時開催で実施した。広報や割引制度などで密な連携をはかり、実績に繋がった。 ・企画展の好調に相乗したことに加え、常設展のみの観覧券を購入する来館者も多く、常設展の観覧者も一定の実績を上げることができた。 ・常設展では「特集：中野四郎」など、調査研究を踏まえたコーナー展示を行い、一定の成果を上げることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・展示事業は順調に再開できているが、これまで新型コロナウイルス感染防止対策のため開催を控えていた対面でのイベント(ギャラリートーク、講演会、シンポジウムなど)やボランティア活動などが、再開できていない点が課題である。
対応の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・対面でのイベントやボランティア活動を再開するタイミングを見極め、段階的に本格実施に向けて進めていく。 例えば、美術館サポーター(ガイドボランティア)については、5月から、1回の時間を30分間から15分間に、定員を5人に、ガイドの対象を屋外彫刻、建築をメインにするなど、必要な制限をしながら月当たり1~2回のペースで再開し、段階的に本来の常設展の解説ガイド実施へ近づけていく。

評価結果に対するコメント

1. 全体に係る評価

各館協議会・委員会の意見

○コロナの影響でギャラリートーク、シンポジウム等々、イベントがなかなかできない、評価が未達成となっているとのことだが、まさにギャラリートークとかいうものは、オンラインで行うのも一つの方法ではないか。実際にシンポジウムとかでオンラインで参加したものもいくつかある。臨場感がないというデメリットはもちろんあるが、わざわざ行かずに、自分の家やオフィスで気楽に参加できるというメリットもあるので、こういった活動をオンラインで展開していくというのは、今後の一つのやり方だと思う。

○対応の方向としても書かれているが、私も校長であって、自校のことを申し上げますと、行事の運営等、やはりタイミングを見極めるということと、段階的にということがとても大切な要素になってくると考えている。教育普及活動においては、そこに例があるように、時間を考慮してとか、定員を配慮してとか、少しずつ工夫をしながら運営していくことに期待をしたいと考えている。